

いの町史編さん室だより(No.9)

「いの町史編さん室だより」は今回で9回目になります。毎回、町史編さん作業で知り得たことや体験したことなどを町民の皆さんに紹介していますが、いかがでしょうか？ 平成26年の町の合併10周年を目標に「いの町史」の編さんを進めている町史編さん室では、町民の皆さんが参加する町史づくりを目指しています。つきましては、町史編さんに役立つと思われる資料・写真などがあれば、ご連絡ください。それでは、今月の意外と知らない話をどうぞ。

意外と知らない話

編さん委員 久保 慧菜

「山の楮畑で育っています、土佐和紙の原料」

平成24年10月、町史のために楮の畑を取材させていただきました。場所は吾北地区の柳野です。広く快適な道から、くねくねと斜面に沿って登っていくと、楮畑の前に出ました。やっと秋風が吹き始めたところで、楮の木はまだ青々としています。これが和紙の原料となる畑です。

この柳野という地名は、楮と同じく和紙の原料である三桮^{みつ}を柳と呼ぶことにちなんでいます。量は減っていますが、今も三桮畑は健在です。

楮畑を管理されている渡辺倉重さんと、案内して下さった原料問屋の塩田英夫さんに、お話を聞きました。畑は全部で3反余りあるそうです。もとはお茶畑だったところ^{かなめ}です。要という種類の楮だと聞きました。

楮も安価な輸入品があります。国産楮（土佐楮も）の良さは、細くてもしっかりと肉厚なことだそうです。夏に雨



山の楮畑

が多く、日照時間も長く、それが冬になると寒さでキュッと締まるから、いい楮ができるとか。

楮は成長が早く、収穫は年に一度、冬の寒い時期に行います。春には手入れをしなければなりません。4月～5月に小さい楮を剪定し、5月には新しい枝から出てきた新芽を取り除くことで、紙の原料となる樹皮をなめらかに育てていきます。いわゆる「芽欠き」で、地元ではこの作業を「わく」と呼び、新芽が5センチ以内のうちに除きます。ちなみに、1株に出てくる新しい枝を10本までに抑えるのだそうです。

もつれついたカツラは取り除き、肌のきれいな楮を作ります。そして、ヒゲ草と呼ばれる草を植えて雑草よけにしたり、また、刈って敷いた草を肥料にしたり、他の肥料も入れて、楮のお世話をします。そうやって世話していても、台風で枝や葉がこすれて傷んでしまうこともあるのが露地栽培の難点です。

11月になれば、葉が自然に黄色くなって枯れ落ち、やがて収穫を迎えます。株の根元から切り取り、まずは昔ながらの楮蒸しをして皮を剥ぎます。傷のない楮は原料としての価値が高いですが、それは、どれだけ山で人の手を掛けただかによるのです。



問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室（内線 31）
☎ 893 - 2012 ☎ 893 - 2013

いろんな情報
をお待ちして
おります。



いのちのういじん